

## ◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「税金が作り出す日本の未来」

小平市立第六中学校 2年 齋藤 成美

私は税金のことについて、いままで詳しく知らなかった。身近な税金は消費税ぐらいだと思っていた。でも、調べると物の販売やサービスの提供にかかる消費税の他にも、個人の所得に対してかかる所得税、株式会社などの法人の活動によって得られる所得にかかる法人税など調べれば調べるほど出てくる。また、何に使われているのかを調べると自分が知らなかっただけで医療費や道路の整備など税金は身近なところで色々な使われ方をしていて分かった。その中でも中学生の私にとって最も身近にあるのは学校だ。学校では、校舎や机、椅子、教科書などほとんどのものに税金が使われている。

なぜ日本には義務教育があるのか。義務教育の目的を調べてみると「人間力を備えた市民となる基礎を提供すること」と出てきた。具体的にいうと、字を書く力、字を読む力、計算する力などのことだろう。小学生のとき、ユニセフの募金活動があり、世界には読み書きや計算をすることができない子がたくさんいることを知った。家が貧しくて授業料が払えない、家計を助けるために働かなければならないという理由からだ。私は、このような子が世界にいると聞いたときあまり想像がつかずよく分からなかった。当たり前のように学校に行って授業を受けていた自分にとって、読み書きや計算ができない大変さは一度も考えたことがなかったからだ。このような子は注意書や警告書があっても読むことができず危険にさらされてしまったり、計算ができないことで金銭的な管理ができなかったり、騙されてしまうこともあるらしい。読み書きができないということは、自らの人生や命を危険にさらしてしまうことと同じことなのだなと思い、読み書きや計算ができないことに怖さを覚えた。

税金をとられて自分は損しかしていない、税金がなくなったらお店に売っている物も安くなるし良いことじゃん、と今までは思っていた。でも今は違う。税金があることに感謝している。税金は自分が思っている以上に身近なところにあふれていて、税金があるという重要さが分かったからだ。また、同時に当たり前のように学校に通えて授業を受けられていることにありがたさを感じた。税金は義務教育を通し私達に生きるために必要な最低限の力を与えてくれている。税金は日本の未来のため、また私達、子供達の未来のためにあるのだと思う。

中学生の私は、まだ税金を使ってもらっている側だが、自分の次の世代のためにしっかり税金を納めていけるような大人になりたい。